

科目名	科学技術英語		英文表記	English for Science and Technology		平成29年4月18日		
科目コード	5004		教員名:情報通信システム工学科 所属教員				修正	
技術職員名:								
対象学科/専攻コース			学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
情報通信システム工学科			5年	必	学修	2単位	講義	前期
科目目標 【MCC目標】	<p>科学技術分野に関連する記事、論文、図書等を、英語を通して学ぶことにより、専門分野における英語能力の育成を図る。 ディベート演習を行い、プレゼンテーションと討論を英語で行う能力を高める。</p> <p>【Ⅲ-B】英語分野では、相手と英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付け、自分や身近なことについて、ある程度の的確さ、流暢さ、即応性をもって理解したり伝えたりする初歩的な英語運用能力を養うことを目標とする。</p>							
総合評価	<p>定期試験(中間・期末)で評価する。 配点は、各専門分野の問題:40点、共通問題:60点とし、合計の60%以上を合格とする。</p>							
科目達成度目標	目標割合	科目達成度目標	達成度目標の評価方法	ルーブリック				
				理想的な到達レベル(優)	標準的な到達レベル(良)	最低限必要な到達レベル(可)	セルフチェック	
	50%	① 英語で書かれた専門分野に関する論文やマニュアルなどばかりでなく、時事問題や一般常識・教養を扱う文章を、正確に理解できる。	正しく読み書きができるか定期試験で評価する。	専門分野に関する論文やマニュアルなどを、辞書を用いないで正確に理解できる。未習の構文や単語などは既習事項から推測して読める。	専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を、辞書を用いて理解できる。	専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を、辞書を用いて断片的に理解できる。		
	10%	② 英語で話された専門分野に関する事項ばかりでなく、時事問題や一般常識・教養を問われる事項を正確に聞き取ることができる。	正しく聞き取れているか、質疑応答および定期試験で評価する。	ナチュラルスピードで話される専門分野に関する内容について、正しく理解できる。質疑応答時に予想外の時効が話されても正しく聞き取ることができる。	専門分野に関する内容について、はっきりとした発音で話されれば理解できる。	専門分野に関する内容について、はっきりとした発音で何度か話されれば断片的に理解できる。		
	10%	③ 専門分野に関する事項ばかりでなく、時事問題や一般常識・教養を反映する事項を英語で正確に話すことができる。	正しく話せるか、質疑応答および定期試験で評価する。	専門分野に関して、自然な英語でプレゼンテーションやスピーチを行い、「内容に関してやり取りをすることができる。	専門分野に関して、平易な英語でプレゼンテーションやスピーチを行うことができる。	専門分野に関して、時々つかえながら英語でプレゼンテーションやスピーチを行うことができる。		
30%	④ 専門分野に関する事項ばかりでなく、時事問題や一般常識・教養を反映する事項を英語で正確に書くことができる。	正しく読み書きができるか定期試験で評価する。	専門分野に関するプレゼンテーションやスピーチ用の英文原稿や英文資料を、自然な英語で書くことができる。また、書いたものに説得力がある。	専門分野に関するプレゼンテーションやスピーチ用の英文原稿や英文資料を、基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	専門分野に関するプレゼンテーションやスピーチ用の英文原稿や英文資料を、時折不適切な表現を交えながらも書くことができる。			
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	<本科教育目標> (1)技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する (2)創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する (4)広い視野と倫理観を備えた人材を育成する			
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合								
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック	
評価項目		100	0	0	0	100		
基礎的理解	①②③④	50				50		
応用力(実践・専門・融合)	①②③④	50				50		
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)								
主体的・継続的学修意欲								

授業概要、方針、履修上の注意	各授業は研究室ごとに実施し、専門分野に関する論文等を講読する。 ただし、科学技術英語力の確認として試験を実施するにあたり、共通のテキストを用意し、その中から、イディオム、英訳、和訳を出題する。各研究室では、科学技術英語の講義の一部として、そのテキストを使用することができる。 研究室ごとに適宜ディベート演習を実施する。
教科書・教材	定期試験のための教材を配布。 このほかに各研究室で配布されるテキスト教材。 英和辞典・和英辞典・英英辞典など。

授 業 計 画

週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェック
1	オリエンテーション	2	ガイダンス、教材紹介、ディベート概論	教材や資料の予・復習	
2	英文演習	2	科学技術関連英文の読解、ディベート演習	教材や資料の予・復習	
3	英文演習	2	科学技術関連英文の読解、ディベート演習	教材や資料の予・復習	
4	英文演習	2	科学技術関連英文の読解、ディベート演習	教材や資料の予・復習	
5	英文演習	2	科学技術関連英文の読解、ディベート演習	教材や資料の予・復習	
6	英文演習	2	科学技術関連英文の読解、ディベート演習	教材や資料の予・復習	
7	英文演習	2	科学技術関連英文の読解、ディベート演習	教材や資料の予・復習	
8	前期中間試験(行事予定で週変更可)	2	中間試験	教材や資料の予・復習	
9	英文演習	2	科学技術関連英文の読解、ディベート演習	教材や資料の予・復習	
10	英文演習	2	科学技術関連英文の読解、ディベート演習	教材や資料の予・復習	
11	英文演習	2	科学技術関連英文の読解、ディベート演習	教材や資料の予・復習	
12	英文演習	2	科学技術関連英文の読解、ディベート演習	教材や資料の予・復習	
13	英文演習	2	科学技術関連英文の読解、ディベート演習	教材や資料の予・復習	
14	英文演習	2	科学技術関連英文の読解、ディベート演習	教材や資料の予・復習	
15	英文演習	2	科学技術関連英文の読解、ディベート演習	教材や資料の予・復習	
期末	期末試験	[2]	期末試験		
16		2			
17		2			
18		2			
19		2			
20		2			
21		2			
22		2			
23	後期中間試験(行事予定で週変更可)	2			
24		2			
25		2			
26		2			
27		2			
28		2			
29		2			
30		2			
期末	期末試験	[2]			

学習時間合計

60

実時間

45

自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)

標準的所用時間

① 科学技術論文講読・単語・イディオムの習得

各2時間×15回

②

各5時間×2回

③

備考欄

(各科目個別記述)

・この科目の主たる関連科目は、科学技術英語(3、4年)である。

(モデルコアカリキュラム)

・対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。

(航空技術者プログラム)

・【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。

(学位審査基準の要件による分類・適用)

科目区分：[関連科目] 工学および周辺技術等に関する科目

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)